

障害者就労施設の工賃向上に資する生産設備の導入モデル事業取組事例（石川県）

実施事業所

ワークセンター星が岡

導入した設備

しいたけ生産設備

事業の応募のきっかけ(事業所が抱える課題)

事業開始は水耕栽培の簡易農業ハウスを転用している為、ハード面での栽培環境に課題が多く(夏季の冷房設備の未整備、断熱対策)、夏季の栽培・出荷体制が脆弱となっている。そのため、通年を通して安定した栽培・出荷作業が安定せず売上が減収と共に、利用者が関わる仕事量の低下を招いている。生産設備とはなっていない。近年の気候変動(温暖化)が進む中ではより課題が顕著化してきている為、栽培設備の再整備(改善)が課題となっている。



事業内容

ワークセンター星が岡では2021年より、地域の事業承継に加え、工賃向上に向けて、より付加価値の高い生産活動を模索し、地域ニーズも踏まえ、しいたけ栽培をスタート。

このモデル事業を活用し、通年での安定栽培を推進し、更なる利用者の工賃向上を図ると共に、石川県産しいたけの供給量の確保に貢献していきたい。



生産設備導入後の効果

市場ニーズに対応する為、栽培菌床を3000個増加。
既存ハウス栽培12000菌床で年間 1500万円の売上 (1250円/菌床)。
新設ハウス栽培 3000菌床で年間 420万円の売上 (1400円/菌床)。
栽培環境の増設・強化により、1菌床当たりの売上150円アップを目指して生産の効率化・強化。及び通年栽培・安定生産・供給体制により年間総売上2000万円を実現し、通年型で安定した仕事量の確保により、利用者の工賃向上を見込む。石川県産しいたけの栽培に積極的に取り組むことで、障害のある利用者が事業継承の役割を担い、且つより高い工賃の獲得をしている。